学校番号	1101

令和２年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生物基礎　新訂版」（実教出版）						
副教材等	「アクセスノート　生物基礎　改訂版」（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書の順番通りに内容を５分割してテスト範囲を設定しますが、生徒のニーズに応えるため、医療・看護系の内容（人体の生理学）に十分な時間を割きたいと思います。
教科書はもちろん、副教材もできるだけ活用するので、毎時間持参してください。
実験はテスト範囲ごとに１回の年間５回を予定しています。

２　学習の到達目標

１年後に受講者全員が「センター試験」（2020 年度から改名予定）で全国平均程度の得点が可能な学力を到達目標とします。
生物基礎を「しかたなく」受講する人がいない、真に「学びたい」人だけが受講しているものと想定して授業を進めていくので、しっかり授業についてきてください。
そのためにはぜひとも復習の習慣をつけてください。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	細胞のしくみやごく基本的な生命現象について関心をもち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を習得している。	いろいろな生命現象の中に問題点を見いだし探求する過程を通して、科学的な思考能力を身に付け、到達した考えを的確に表現している。	光学顕微鏡を用いた試料の観察に慣れ、いろいろな生物に実験や観察を通してふれ、観察内容の記録・測定データの処理能力を高めて自然現象を科学的に探求する技能を身につけている。	生物基礎の教科書の範囲で取り上げられている基本的な生命現象について、そのしくみやなりたちを理解し、それらを説明するために必要な知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述	学習状況の観察 ワークシートの記述 小テスト 定期考査の結果	学習状況の観察 ワークシートの記述 実験・観察の記録 小テスト 定期考査の結果	学習状況の観察 ワークシートの記述 小テスト 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	生物の特徴、遺伝子とその働き	生物の多様性と共通性 細胞とエネルギー 遺伝情報とDNA 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成	○	○ ○	○	○ ○	a:細胞が外界からエネルギーを得て生命活動を営むしくみについて関心をもち、科学的な見方ができる。 b:遺伝情報がＤＮＡという化学物質に起因し、細胞分裂を通して次世代へと連続していくしくみについて考察し、的確に表現できる。 c:身近な動植物の細胞や組織をもちいた実験・観察を通して基本操作を習得し、過程や結果を的確に記録・整理できる。 d:ＤＮＡの遺伝情報をもとに最重要物質であるタンパク質が合成される道筋を理解し、必要な知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察・実験の記録 定期考査の結果
後期	生物の体内環境とその維持、生物の多様性と生態系	体内環境とその維持のしくみ 免疫 植生と遷移 気候とバイオーム 生態系と物質循環 生態系のバランスと保全	○	○ ○ ○ ○		○	a:人体をテーマにした授業を通して心臓、血液、肝臓、腎臓、自律神経、ホルモンについて関心をもち、科学的な見方や考え方を身につけている。 b:植生と遷移、気候とバイオーム、生態系について考察し、的確に表現できる。 c:（実験・観察については後期の単元では実施しにくいので、教科書の内容にとらわれずに題材を選び実施する）基本操作を習得し、過程や結果を的確に記録・整理できる。 d: 近年注目を浴びている免疫現象について理解し、知識を身につけている。	学習状況の観察 ワークシートの記述 観察・実験の記録 小テスト 定期考査の結果

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現　c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。